**テーマ「いかにして臨床指向の強い、豊かなリサーチマインドを持った学生を育てるか」**

本学は研究拠点大学として選ばれたが、同時に国際認証も受けるようにとの指導がなされており、これらを両立すべくカリキュラムの再編が急がれるが、そんな中で在学中の現役学生は、研究と臨床の両立についてどのように考えているか、今回のシンポジウムの最後のメインイベントとして開催しました（パネラーは以下の通り）。

参加された学生からは、率直な意見が数多く出ており、大学としても参考となりました。それらを一部、抜粋しご紹介致します。

まずは、最上級生である服部裕介さんにお尋ねします。

***Ｑ１：リサーチというものをどのように考えているか。実際の臨床の中でリサーチをどう捉えていますか？***

**服部裕介（熊本大学医学部医学科6年）**

私自身は将来、整形外科医を目指しておりますが、医師になるには研究と臨床の両立が大事だと考えています。これからは臨床レベルも研究レベルも高い学生が求められると思います。臨床で体験したものを基礎研究の方にフィードバックする、これの繰り返しが大切だと思います。

***Ｑ２：基礎研究と臨床は両立できると思いますか？***

僕は、プレ柴三郎プログラムの学生として昨年、学部生でいながら大学院の授業を受けておりました。授業内容は難しく大変でしたが、もともと医学部には高負荷に耐えられるような学生が入学していると思うので、大丈夫だと思います。

今度は、パネリストの全員にお尋ね致します。

***Ｑ３：豊かなリサーチマインド臨床指向性とは何か？***

***あなたは将来、どういう医者になりたいのか？研究というものを、どう捉えているのか？***

**徳田雄平（熊本大学医学部医学科1年）**

まだ入学したばかりですので、今は臨床と研究の両方に興味がある、というのが本音です。新入生オリエンテーョン以降、医学科の先輩や先生方に、「研究室に来てみないか！」と誘われ見学に行った時に、学部生でも研究ができるということがわかりました。それ以降、個人的に研究室に出入りするようになりました。これからどういうことに興味を持つのかは分かりませんが、今できること（研究など）を、今はしっかりとやりたいです。

**永芳　友（熊本大学医学部医学科3年）**

先日、琉球大学から見学に来た学生と話したのですが、その方は「別に、早期に取らなくても良いんじゃないか？２年間、ちゃんと臨床研修をしてそのあとに、4年間大学院に行っても良いんじゃない？」とおっしゃいました。これを聞いて僕は、ハッとしました。早く入学する、またはゆっくり取得するといった事までは考える機会が今までは無かったような気がします。自分たちが博士号を取るのか取らないのか、またどのような方法で取るのかということの判断材料として、いま我々が学んでいる基礎や臨床の講義を活かしていく事が大事。

**守本祐一（岡山大学医学部医学科3年）**

「制度」というものは、自分の目的に合ったものであれば使えば良いし、合わなかったら取らなければ良い。基礎の方に興味はあるが、自分にその才能があるかも分からないし、海外留学もしたいと考えているので、そういったプログラムを先に置くと言った考え方は私にはできません。とにかく、自分の研究したいラボが含まれている大学にそういうプログラムがあって、自分に合うのであれば使えば良いと思います。

**西岡龍太郎（愛媛大学医学部医学科4年）**

田中先生と出会ってから大学に行くのが楽しくなりました。そこでの実験じたいが楽しくて、今は基礎というものの楽しさが知れて良かったと実感しています。もともとは臨床指向が強いのですが、基礎に触れたことでそれぞれの面白さを知った上で選択が出来るようになったので、それは良かったと思います。仮に臨床に行ったとしても、新しいものを求め続けたりしたいし、将来臨床に進んだ後に臨床が合わないと思った時には、基礎研究に進む道も残されていると思うと、やはり学生のうちに基礎に触れることはとても大事だと思います。

**木下裕規（熊本大学医学部医学科5年）**

機会がとても大事。自分は3年生の基礎演習から研究に触れました。私も1年生の時から研究に触れる機会があれば良かったのになぁと思いました。医学部に入学当初はどの学生も、漠然とではあるが研究にも興味を持ち、入学して来ていると思うのですが、できるだけ早いうちに研究する機会を設けて貰えたら、リサーチマインドも育まれると思います。基礎研究をやっていく中で、臨床との繋がりも見えてくるので、僕は臨床医を目指していますが、研究を行う期間もしっかりと設けたいと考えておりますので、機会がリサーチマインドを育む上で大事かなと考えています。

―みなさん、正直な意見ばかりですね。こちらとしても、大変参考になりました。ありがとうございました！